



令和7年度 沖縄県学力向上推進本部会議からの提言

多様な幼児児童生徒に「新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力」を育むために



本県の幼児児童生徒に新しい時代を創るために必要とされる資質・能力を育むために『「自立した学習者」育成プロジェクト』（令和7～9年度）に示す取組の実践と共に、学校・家庭・地域・行政が連携・協働した取組を推進しましょう。



「自立した学習者」育成のための、魅力ある園・学校を目指して

提言1 「魅力ある学校づくり」を目指した学校改善の推進

～自校の「目指す児童生徒像」実現化を目指した
校内研修の充実による、学校全体の教育力向上～

- 自校の「目指す児童生徒像」につながる「育成を目指す資質・能力」を明確にし、それを全教職員で共有して取り組む校内研修
- 「支持的風土の醸成」「自治意識の醸成」「学習観の転換」を念頭に、知識伝達だけでなく、自らの経験や他者から学ぶといった「現場の経験」も含む学びのスタイルを重視した校内研修



全教職員が研修を自分事として捉えることができ、日々の授業などにその成果が反映させやすく、教師自身が学びの成果を実感しやすくなる、自校の「目指す児童生徒像」実現化を目指した校内研修の充実を図りましょう。

提言2 4つの取組と4つのポイントによる授業改善の推進

～多様な他者と関わりながら、問いを持ち、課題の解決に向かう
「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくり～

- 授業改善のための4つの取組
 - 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
 - 「指導と評価の一体化」の実現
 - 「学習基盤としてのICT」の活用
 - 「自学自習力」を育む取組の充実
- 授業改善を支える生徒指導4つのポイント
 - 自己存在感の感受
 - 共感的な人間関係の育成
 - 自己決定の場の提供
 - 安全・安心な風土の醸成



多様な児童生徒一人一人が、自分のよさに気付き、可能性を伸ばしながら、主体性を持って取り組めるような授業の質的改善を図るため、PDCAサイクルによる組織的・継続的な取組を推進しましょう。

提言3 「夢・なりたい自分」の実現に向けたキャリア教育の充実

～教育活動全体を通じた、多様な幼児児童生徒の
「か・ふ・や・み」力の育成によるキャリア形成の促進～

- 「夢・なりたい自分」の実現に向けて、目的意識をもって、授業や特別活動等に取り組む児童生徒の育成
- 「キャリア・パスポート」の活用促進
- 「自立した学習者」育成のための「自学自習力」を育む取組の充実

多様な幼児児童生徒が、将来、社会で自分自身のよさを発揮し、社会人・職業人として自立するために必要な『かかわる力』『ふり返る力』『やりぬく力』『みとおす力』を育成するための「キャリア教育」を教育活動全体で推進しましょう。



提言4 体力の向上及び部活動等の充実と地域移行の推進

～多様な幼児児童生徒の運動・スポーツ、
芸術文化等に親しむ意欲・態度の育成～

- 生涯にわたって運動・スポーツ、芸術文化等に親しむ意欲・態度を育てる体育・保健体育授業等の工夫改善
- 各学校（園）における「一校（園）一運動」の充実
- 適切な部活動のあり方「1日2時間程度（休業日は3時間程度）週末は1日以上を休業日」の推進
- 休日の中学校部活動の段階的な地域連携・地域移行の推進

生涯にわたる豊かなスポーツライフ等を実現するため、運動やスポーツ、芸術文化等に親しむ資質・能力を育成する体育・保健体育等の授業を工夫改善し、充実を図りましょう。
また、地域での多様な体験や様々な世代との豊かな交流を通じた学びなどの新しい価値が創出されるよう、適切な部活動のあり方及び、休日の中学校部活動の段階的な地域連携・地域移行を推進しましょう。



提言5 質の高い幼児教育及び保幼こ小の円滑な接続の推進

～資質・能力をつなぐ保育・教育の充実～

- 計画的な園内研修・公開保育の充実（幼児教育）
- 各園・小学校や地域の創意工夫を生かした「架け橋プログラム」の推進（幼児教育・小学校教育）

各園においては、園内研修や公開保育を通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点を手掛かりとし、幼児一人一人の良さや可能性を把握していくとともに、指導が適切であったかを振り返り、指導の改善に生かしていきましょう。

各園・小学校においては、相互に実践を見合ったり合同研修を行ったりすることや、架け橋期（5歳児と小学校1年生の2年間）のカリキュラムの開発・実施等、「架け橋プログラム」を進め、育みたい資質・能力や遊び・学びのプロセス、教育活動について相互理解を図り、**保育・教育の充実並びに保幼こ小の円滑な接続**を推進しましょう。



学校・家庭・地域等の連携・協働を通して

提言6 持続可能な社会の創り手としての幼児児童生徒の育成に向けた、学校・家庭・地域等の連携・協働の推進

～SDGsを意識し、学校・家庭・地域等で役割を
分かち合い、連携・協働した教育活動の充実～

- コミュニティ・スクール(学校運営協議会)と地域学校協働活動の一体的推進
- 毎月第3日曜日・ファミリー読書の日の推進
- 規則正しい生活リズムの確立
- スマートフォンやタブレット等の利用ルールの設定と情報モラルの遵守

保護者や地域の方々が学校運営や教育活動へ参画することにより、学校教育目標や教育課程を通じて幼児児童生徒に育みたい資質・能力を理解し、連携・協働しながら役割を分かち合い、SDGsを意識した「**社会に関かれた教育課程**」の実現を目指しましょう。



未来を見据えた教育行政

提言7 社会の変化を捉えた教育の実現

～多様な幼児児童生徒一人一人の
可能性を引き出す学びの実現～

□ 「自立した学習者」の育成を目指した取組の充実

社会の急速な変化にも対応できる、生きて働く知識・技能等を身に付けさせることが一層求められる時代となっており、生涯にわたって学び続ける力、「生涯学習社会を生き抜く自立した学習者の育成」が一層重要になっています。
そのため、教育行政においては、国の動向等を踏まえつつ、所管の学校・家庭・地域の現状を把握して、成果と課題を共有し、それぞれの役割や特徴を捉えて各種研修会を充実させましょう。
また、「**児童生徒に向き合うための時間の確保**」等の「**働き方改革**」の取組などについても、相互の連携・調整・協働により、効果的に取組を推進しましょう。

